

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2011年2月8日報告

2010年4Q(10-12月)調査結果 目次

1	2010年4Q(2010年10-12月)結果の要約	3	7	端末販売動向推移	24
2	1-3月の出荷、販売見通し	4	7.1.	2010年4Q端末販売動向	24
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.2.	2010年4QのSmart Phone販売動向	27
3.1.	2009年1Qから2009年4Qの地域別加入修正	9	7.3.	2011年方式別、メーカー別端末販売予測	29
3.2.	中国 インド、ブラジル、ロシア加入推移	11	8	Nokiaの2010年4Q動向	31
4	方式別加入推移(四半期別)	13	9	Samsungの2010年4Q動向	34
4.1.	2009年1Qから2009年4Qの方式別加入修正	16	10	LGの2010年4Q動向	36
5	2011年加入者予測	18	11	Sony Ericssonの2010年4Q動向	39
5.1.	地域別	18	12	Motorola Mobilityの2010年4Q動向	41
5.2.	方式別	19	13	Smart Phoneメーカーの2010年4Q動向	44
6	主要オペレータ加入者数推移	20	13.1.	Research in Motion	44
6.1.	アジア	20	13.2.	Apple	45
6.2.	西欧	21	13.3.	HTC	46
6.3.	東欧	21	14	その他の端末動向	46
6.4.	北米	22	15	日本メーカーの2010年4Q動向	47
6.5.	中南米	22	16	端末各社の出荷計画	48
6.6.	中東/アフリカ	23	17	製品在庫状況	49
6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	23			

2010年4Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

97カ国の2010年末の累積加入件数は50億件の大台を突破した。97カ国以外の加入件数を含めたワールドワイドでは53億件前後まで達したものとみられる。

10-12月期の新規加入件数は季節需要から1.7億件に達し、2010年全体では6.6億件と2009年の5.8億件を上回った。2010年の新規加入はアジアが大半を占め、その内インド、中国が圧倒的なウエートを占めた。アジアではこのほかインドネシア、バングラディシュ、フィリピン、ベトナム、ネパールが牽引した。中央アジアもウズベキスタンを中心に新規加入は増加傾向を辿った。

2011年の式加入件数は2009年並みに鈍化するものとみなした。

端末需要

4Qの端末販売台数は前年同期比13%増と堅調に推移した。内Smart Phone比率は26%に達し、前年同期の15%から10ポイントウエートを上げた。

OSベースでは4QでAndroid OSが初めてNokiaのSymbianを台数ベースで抜いた。またMicrosoftの新OS Windows Phone 7 (WP7) 採用モデルが4Qで複数のメーカーからリリースされたがAndroidを脅かすには至らなかった。

Smart Phoneで出遅れたLG、劣勢が目立つNokiaは挺入れに着手、LGは12月に組織再編を実施、Nokiaは今週末にプラットフォームの見直しを発表する予定である。

2010年全体の端末販売台数は前年比14%の大幅増になった。ただ大手5社の占有率は2009年の78%から2010年は71%までシェアを下げ、LG、Sony Ericsson、Motorolaの3社は台数ベースで前年割れになった。

1-3月期の販売台数を前期比11%減と予想した。季節性から1Qは前期を下回る傾向をもつが、下落幅は例年に比べ小さい。

Appleが前期を上回る出荷見通しで、その他のSmart Phoneメーカーも堅調な伸びを予想した。

AppleはVerizon向けにCDMA版を1Qで店頭販売し、UMTS版の販売分の上乗せが出荷増の背景になる。

2011年はSmart Phoneと超ローエンドの2極化が鮮明になり、超ローエンドでは低価格を武器にNokiaに攻勢をかけるものとみられる。またSmart Phone分野では150ドル以下のローエンドAndroidが新興国を中心に市場浸透し、ローエンドではSamsung、LG、Motorolaや中国大手メーカーも積極的に参戦する見通しである。